

● 明るく健康なまちづくり部会

**谷口永峻議長**

次に日程第2、「一般質問」を議題といたします。

議長に「発言通告書」が提出されておりますので、順次発言を許します。

最初に、明るく健康なまちづくり部会 2番 星が丘中学校2年 山本麻衣さん、14番 宇都宮南高等学校2年 小川晃弘さん。

2番 山本麻衣議員

議長，2番

14番 小川晃弘議員

議長，14番

〔2番 山本麻衣議員， 14番 小川晃弘議員 登壇〕

2番 山本麻衣議員



2番, 星が丘中学校の山本麻衣です。「老人クラブ」について提案いたします。

私達のグループは, 高齢者の定年後の市でのケアを調べていくうちに, 老人クラブという活動を知りました。今現在宇都宮市内にあるクラブ数は約360ヶ所で, 市内に在住している高齢者約10万人のうち, 約2万人が参加していることがわかりました。また, 各クラブでも地域に密着した活動を行っており, パンフレットにも細かい活動内容が記載されています。しかし, そのような中でもクラブ数が年々減少しており, 高齢者の方々にとってのふれあいの場がなくなりつつあります。老人クラブは, 高齢者の方々にとって, 様々な人々とふれあう良い機会であることから, その場を盛り上げる取り組みが必要なのではないでしょうか。そこで私達は, 老人クラブの活性化のために次の2つの提案をしたいと思います。

1つ目は, 老人クラブという名前を改名することです。高齢者の方々の多くは, 自分は若いと思っていたのではないかと思います。この名前では, 高齢者の方々にとって参加しにくいのではないのでしょうか。そこでクラブの名前を改名し, もっと若々しく, いきいきとした印象を与え, クラブに参加しやすいようにすれば良いと思います。

2つ目は, 入会パンフレットの内容をさらに充実させ, クラブの活動をもっと知ってもらうことです。クラブに入会するとなると, どのような雰囲気や, どのような活動をしているのか知りたいと思います。パンフレットに, 活動の写真や入会者の体験文を載せれば, 老人クラブがどのようなものか理解をしていただき, 更に活発な活動を行っていくことができると思います。

以上の提案によって高齢者の方々が, 家に閉じこもらない環境をつくり, 毎日明るく元気に過ごしてもらおう。それが元気な高齢者を増やす鍵ではないのでしょうか。

以上で提案を終わります。よろしく申し上げます。

14番 小川晃弘議員

14番, 宇都宮南高等学校の小川晃弘です。「防犯意識の向上」について提案いたします。

私達はまず, 宇都宮市内の刑法犯認知件数を調べました。その結果, 宇都宮市の犯罪の傾向としては, 窃盗犯の推移が全犯罪中の3分の2を占めていることがわかりました。また, 全国の中核市の刑法犯認知件数の中で, 宇都宮市の順位は上位に位置し, 早急に対策を講じる必要があることもわかりました。

宇都宮市が今現在行っている対策としては, 地域に防犯灯の設置やパトロールを促したり, フェスタ my 宇都宮で防犯ブースを設けたりしています。これらの対策の効果としては, 平成15年の刑法犯認知件数が



12, 899件だったのに対し、平成19年は9,733件ですので、着実に効果が出てきていることが分かります。

しかし、更に犯罪を減らすためには、宇都宮市民全体の防犯意識を高める必要があります。

刑法犯認知件数の約3分の2を占めている窃盗を見てみますと、6,515件のうち約4分の1を自転車窃盗が占めています。そのうち、約40%が自転車にキー付又は施錠なしということが分かりました。また、キーなし又は施錠をしていた状態でも、窃盗に遭い、そのほとんどがツーロックをしていない状態でした。これらの窃盗は、防犯意識のなさから起こる犯罪の一部です。

そこで私達は、防犯意識を高めるために、フェスタ my 宇都宮等で、行われているクイズウォークラリーの一部の問題に犯罪に関する問題を加えることを提案します。例えば、自転車窃盗に対する問題をつくり、補足説明の中に防犯対策を加えることで、防犯意識を高めることができるのではないのでしょうか。また、平和の日等の宇都宮市を知るための行事に、宇都宮市の刑法犯認知件数の高さとその順位を発表し、防犯対策を同時に示すことで防犯意識を高められるのではないのでしょうか。

以上の提案に対する市のお考えをお聞かせください。よろしく申し上げます。

佐藤栄一宇都宮市長

議長、市長

谷口永峻議長

市長

〔佐藤栄一宇都宮市長 登壇〕

佐藤栄一宇都宮市長

冒頭にあたりまして、谷口永峻議長、そして鈴木麻里菜副議長、どうぞよろしくお願ひいたします。

「明るく健康なまちづくり部会」のご質問に、順次お答えいたします。

まず、山本議員の「老人クラブの活性化について」であります。超高齢社会を迎えようとするなか、高齢者の福祉について真剣に考えている議員のご提案をいただき、大変心強く感じております。

皆さんも映像等で拝見されたことがあるかと思いますが、戦前、そして戦後の日本は大変貧しい国でもありました。しかし、こんなにも豊かな社会、そして日本、宇都宮になったのはすべて今の高齢者の方々のお陰です。そうした高齢者の方は若い頃に汗水を垂らして、寝る間も惜しんで仕事をして働いてくれたから、こんなに豊かな日本、宇都宮になりました。ぜひ、皆さんもそうした高齢者の方々に感謝の気持ちをもっていただきたいと思ひます。

本市といたしましても、これからのまちづくりの指針である、第5次総合計画を策定したところではありますが、中でも、重点的に取り組むべきまちづくり戦略プランの一つとして、「げんき高齢者パワー地域づくり応援プロジェクト」を位置づけ、これまでの老人クラブへの支援のほか、本年7月には、「みやシニア活動センター」をオープンするなど、高齢者の方々が生きがいを持って心豊か

に元気に暮らして行けるよう支援を行っているところであります。

まず、「老人クラブ名の改名について」であります。国におきましては、老人クラブは、仲間づくりを通じて、自らの生きがいづくりや健康づくり、社会奉仕活動などを行う地域の高齢者の自主的な組織として定義をされておりますが、議員ご提案のとおり、若々しく、いきいきとした名称は活動の活性化にも繋がると考えられますことから、名称を含めた老人クラブの魅力向上策につきまして、市内の老人クラブをとりまとめている老人クラブ連合会において改めて検討されるよう、強制力はありませんけれども、市として働きかけてまいります。

次に「入会パンフレットの内容の充実について」であります。これまでも、老人クラブの活動の様子につきましては、会報をとおり、会員に伝えているところであります。

議員ご提案のとおり、入会パンフレットに、活動の写真や、入会者の体験文を載せ、魅力ある内容にすることは、老人クラブへの理解を深め、加入促進策としての効果があるものと考えられますことから、入会パンフレットの内容の充実につきまして、本市といたしましても、老人クラブ連合会と連携して、進めてまいりたいと考えております。

次に、小川議員の「イベントにおける防犯周知活動について」であります。議員の具体的な数字に基づく建設的なご提案ありがとうございます。

近年、子どもなどの、弱者に対する凶悪犯罪が全国各地で起こるなど、日常生活における不安が増大している中で、行政には、市民が心豊かに、安心して暮らすことができる環境づくりが期待されております。

本市における刑法犯として認知した件数につきましては、平成15年をピークとして、減少傾向にありますが、平成19年度に実施した「市政世論調査」における結果では「犯罪被害の不安を抱く市民の割合」は、76.9%と極めて高く、実に市民の4人に3人が犯罪被害に遭う不安を抱いている状況にあります。

犯罪の中には、空き巣やひったくり、車上ねらいなど、一人ひとりの心がけ次第で防ぐこともできる身近な犯罪も、多く発生をしています。

こうしたことから、現在、本市では、老人会や自治会、小学校における防犯講習会の開催や市内の犯罪発生状況の市HPへの掲載、さらには、女性に対する声かけやつきまとい事案などの不審者情報を携帯電話へメール配信するといった様々な取り組みを行なっているところでありますが、何よりも重要なことは、市民一人ひとりが、日頃から犯罪に遭わないよう未然防止の心がけを持ち「自分の安全は自分で守る」という防犯意識を高めていくことだと考えております。

今回、議員からご提案がありました「フェスタmy宇都宮におけるクイズウォークラリーに犯罪に関する問題を加えること」につきましては、大変有効な方策でありますことから、直ちに来年度から実施をいたします。また、平和の日などの行事における周知につきましても、工夫を加えながら積極的に取り組んでまいります。

谷口永峻議長

以上で、明るく健康なまちづくり部会の質問を終わります。